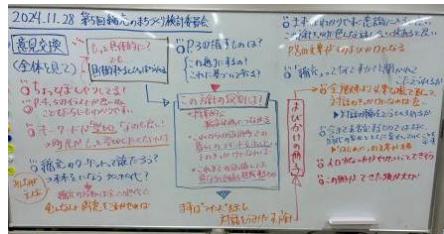


◆全体を通して

- ぼんやりしすぎている(こういうことだ!ということが分からない)
- P3はぼんやりでいいのかも
(具体例を出すことは引っぱり難い/事例を示しては?)
- **縮充のターゲットはどこに向けて理解してもらおうのか?**
30.40代中心?→これからの20年を担う世代かも、でも全世代の理解も大切
- P3のコンセプトに基づいて行動するというのか?
P3のコンセプトのために何をやるのか?
それにあわせて、P4-5の吹き出しの事例も変わるのでは?
→今日話していて、マインド重視(意識の問題)であるということが分かった
- これまでの担い手(頑張ってきた方々)を否定するようになる可能性もあるので気を付ける必要があるが、でも変わっていかねばいけない
→**これまでのやり方などを否定するのではなくて、時代が変わったから変えていかねばいけないという認識が重要**
- 最低限の人口は維持しながら、小さくても充実してしあわせを実現したい



◆冊子の位置づけ

- **住民が縮充のまちづくりに参加したいと思わせる形に**
- いろんな所(組織等)で縮充を実践していくため、佐用町が向かっていくための価値や方向性を示すもの
- 同世代(若い世代)の人同士で、このような話し合いをするきっかけがないので、みんなの意識に働きかけられるものがよい
- P8の「おわりに」は、住民への呼びかけの文章である
「大から小へ」「小でもから小だからこそ」と価値を変え、発想を変えていくきっかけに
- **「このまちで生きていくことが良かったと思えるようにしていこう」という呼びかけの冊子**
- みんなが「えー!」と思うことから始める、始まるのがいいのかもしれない
そのためにも、「おわりに」が「はじめに」にくるほうがいいのかも?
- 「縮充したまちって?＝小さくても少なくても豊かでしあわせ」
→「これってどういう状態?＝楽しくつながる/みんなが主人公」
→「そのためには、こういう行動をする」・・・これをみんなが説明できるものなのでは?
- これまでは人口増への対応ばかりであったが、今後はいろんな価値を選ぶことが重要というメッセージである
- 概念的である「縮充のまちづくり」に対する答えがない中で、佐用町でこのような冊子ができること自体がスゴイこと・・・だからこそ「はじめに」が重要
- 縮充の羅針盤としては、これでいいのでは

◆冊子の活用

- **どう活用していくかが重要**
- 子育て世代はこのような場に来ないので、学校(保護者会)などの場で説明し、**これを機に対話が生まれれば**
- 冊子の出し方は?→電子版も必要、配布方法は?
全戸配布しても読まない人が多い(これまでの計画等もそう)
- **これを見て対話ができる場で配布するほうがいいのかも**
- 対話の輪を広げていく、そんな手法を考えたい
- 今日の話の中で、冊子ができてからが本番であることも見えてきた

◆残る課題等

- 若い人や子どもがいないこと自体が課題
- 住民全体に対する行政の施策は総合計画等で示すものではないか
- 買い物難民は大きな課題、移動販売車も町が補助制度を作ってくれているが、やれる人がいなくなっている
- こういうことに目を向けられないくらい困難な方への配慮も欲しい
- ふれあいをしているも高齢化で何もできなくなってくる
こういう状況への投げかけも必要では

◎本日のまとめ

◎縮充のまちづくり方針が

「呼びかけの冊子」「対話を生む冊子」

となればいいのではないか

【内容の充実】

- P3「子どものチャレンジを大人が応援」に違和感を感じる「子どものチャレンジをみんなで応援」のほうがよい
- P3のどこかに「大人も子どもも学ぶ」を入れて欲しい(大人も学ぶべき)
- 委員会で女性の課題が多く出ていた、もちろんそうなのだが、P3「みんなが主人公」と表現されているのがよい
- やりたい人・適した人が活躍できること、生きがいにできることが重要
- 人それぞれ得意なことが出来る場があればいい
- 「みんなが主人公」＝これまで主人公になれなかった人がなれるという変化
この項目は「みんな」に当てはまることだが、主語を漠然と「みんな」にすると、これまでと一緒(なので若者や女性はやはりポイントであることが分かる表記に)
- P4-5町全体を考えると具体的な部分(商店街・社協など)が示されていないので、町全体のことだというイメージがしにくいのではないかと(現状が厳しすぎるから難しいという一面もあるが)
一方で集落単位などでは、このイメージ図で当てはまることがあるので理解しやすい
- 「高齢者の元気」なども入れることができればいい
- P4-5子どもたちにも分かるページとして、イラストで表現されているのがいい
(誰にむけて?子どもや若者たちへ伝えるのに大切なイメージ図)
「おにぎりを持って花見をしよう」などの事例があってもいいかも
- 大きなものより、小さなものが数あるほうがよい
→P4-5に「個性がある小さい店がたくさんある」などと表現してもいいかも?
- 声掛けや支え合いなど、小さいからこそできることもあるのでは?(どう伝えるか)
P4-5には具体性やメッセージ性が必要かも、対話を生むような形で
- 働く場所や労働(商工業・農業・工業を含め)を入れて欲しい
→P4-5に事例的に入れてもいいかも(チャレンジが仕事に?みたいな感じで)
- P12-13の文字が小さく、読めない
- 「おわりに」のページなどはもっとデザイン性をもたせたほうがよい